



国民の森林・国有林



林政記者クラブ4社へ記者発表

平成25年度重点取組事項

九州森林管理局では、5月31日、平成25年度重点取組事項の記者発表が行われました。冒頭、川端省三局長から5月15日の本予算の成立を受け、取組事項を説明させていただく旨の説明の後、一般会計化の下での九州森林管理局としての新たな取組の方向性が披露され、続けて、各担当部長から具体的な取組についての説明を行いました。

1・一般会計の下での国有林野事業

国有林野事業は平成25年4月より、特別会計から一般会計の事業・組織に移行しました。今後は「公益重視の管理経営の一層の推進」に努めるとともに、

一般会計の下での国有林野事業の推進 国民に向けて情報発信

その組織・資源・技術を活用し、「森林・林業再生への貢献」に取り組むこととしています。九州森林管理局としても、新たな体制の下、多様で豊かな九州の国有林を適切に管理経営するとともに、民有林・地域・関係機関等との一層の連携・協働により、「九州からの森林・林業の再生」の実現に向けさらに積極的に取り組んでいきます。

2・公益重視の管理経営の一層の推進

公益的機能の発揮のための適切な施策の推進
公益重視の管理経営の一層の推進を旨とする方針の下、平成25年度より「山地災害防止タイプ」「自然維持タイプ」「森林空間利用タイプ」「快適環境形

機能類型区分(面積)	考え方	目指すべき森林の姿
山地災害防止タイプ (109千ha)	山地災害の防止及び土壌保全機能の発揮を重視	根や表土の保全、下層植生の発達した森林
自然維持タイプ (82千ha)	原生的な森林生態系や希少な生物の生育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を重視	良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育・生息に適した森林
森林空間利用タイプ (17千ha)	保健、レクリエーション、文化機能の発揮を重視	保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林
快適環境形成タイプ (0.1千ha)	快適な環境の形成機能の発揮を重視	騒音の低減や大気浄化など、人の居住環境を良好な状態に保全する役割を持つ森林
水源涵養タイプ (317千ha)	水源の涵養機能の発揮を重視	人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導を図る森林。森林資源の有効利用にも配慮

新たな機能類型区分

更に熊本県より旧阿蘇地区民有林直轄治山事業箇所、治山施設点検への人的支援要請を受け、延べ58人で2436鈔の区域内、435基の施設点検を実施し、8月1日には施設点検結果を熊本県へ提供しました。

成タイプ」「水源涵養タイプ」の5つの機能類型に区分し、それぞれの機能に応じた管理経営を実施します。木材生産機能については、区分に応じた適切な施策の結果得られる木材を計画的に供給することにより発揮します。

国民生活の安全・安心を確保するため、民有林とも連携を図りながら計画的かつ効果的な治山事業を展開します。また、現地の土石や木材を使用した治山施設の施工を進めるとともに、渓流生態系保全に資する治山事業の推進に積極的に取り組みます。

(2)九州北部豪雨等への対応
昨年7月の九州北部豪雨災害では、国有林内でも多数の被害が発生したため、被害箇所を緊急に調査を実施し復旧計画を策定しました。

生物多様性の保全

(1)「奄美・琉球」の貴重な森林の保全・管理

「奄美・琉球」については、世界遺産登録に向けた動向も踏まえ、「奄美群島森林生態系保護地域」及び「西表島森林生態系保護地域」において、適切に保全・管理を行うため、それぞれの森林生態系保護地域の特質に応じた保全管理計画の策定に向けた取組（学識経験者からなる保全管理委員会の開催等）を推進します。

(2)屋久島世界遺産地域の保全・管理

平成25年度については、昨年度の科学委員会での検討を受けて策定した、新たな「屋久島世界遺産地域管理計画」に沿って、



奄美群島森林生態系保護地域

シカ被害対策、植生回復の実施のほか、縄文杉などの著名ヤクスギの樹勢回復措置などを実施します。

さらに、今年度は「屋久島世界遺産登録20周年」を記念したイベントなどの実施について取り組むこととしています。

(3)地域との協働による「綾プロジェクト」の推進

平成25年度については、間伐を実施した箇所での試行的な照葉樹種子の播種、今後、優先的に照葉樹林に誘導するべき林分の洗い出し（優先度区分マップの作成）など、照葉樹林への効果的・効果的な復元のための調査検討を実施します。

また、森林の形態や多種多様な野生生物の生息・生育状況に



屋久島の花之江河（はなのえごう）

ついて、モニタリング調査を行い現状を正確に把握するとともに、学識経験者からの助言を得るための会議を開催し、適切な保全・管理のために必要な対策などについて検討します。

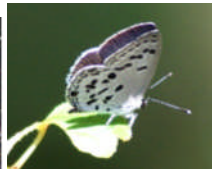
(4)希少な野生生物の保護・保全
引き継ぎ、国有林野内に生息・生育している希少野生生物の保存・増殖を図るためイリオモテヤマネコ等の国内希少野生動物種を対象に、生息地等の巡視や生物学的知見に基づく森林の施業管理を通じた生息環境の維持・整備などの保護対策を積極的にを行います。



イリオモテヤマネコ



ツシマヤマネコ



ゴイヅガノシジミ



アマミノクロウサギ



アマミヤマシギ



オーストンオオアカゲラ

3・九州からの森林・林業の再生

民有林と連携した森林整備等の推進

(1)地域と連携した「シカ被害」への取組

シカ被害の著しい地域におい

て、新たに高標高地域におけるシカの生息・行動などの調査を行うとともに誘引狙撃などの捕獲手法の実証試験などを実施し、成果を取りまとめます。

シカの行動パターンなどを把握しつつ、くくりわなや昨年度九州森林管理局で開発した巾着式あみはこわななどを用いた効果的・効率的な捕獲技術の実証を行います。また、得られた成果については、民有林などへの普及に取り組みます。

県境を越えて広域的に生息するシカの捕獲のために関係県と連携した九州シカ広域一斉捕獲の実施や地元関係者との連携を強化しつつ、署などにおいて職員によるシカの捕獲などに取り組みます。



巾着式箱わなの実演

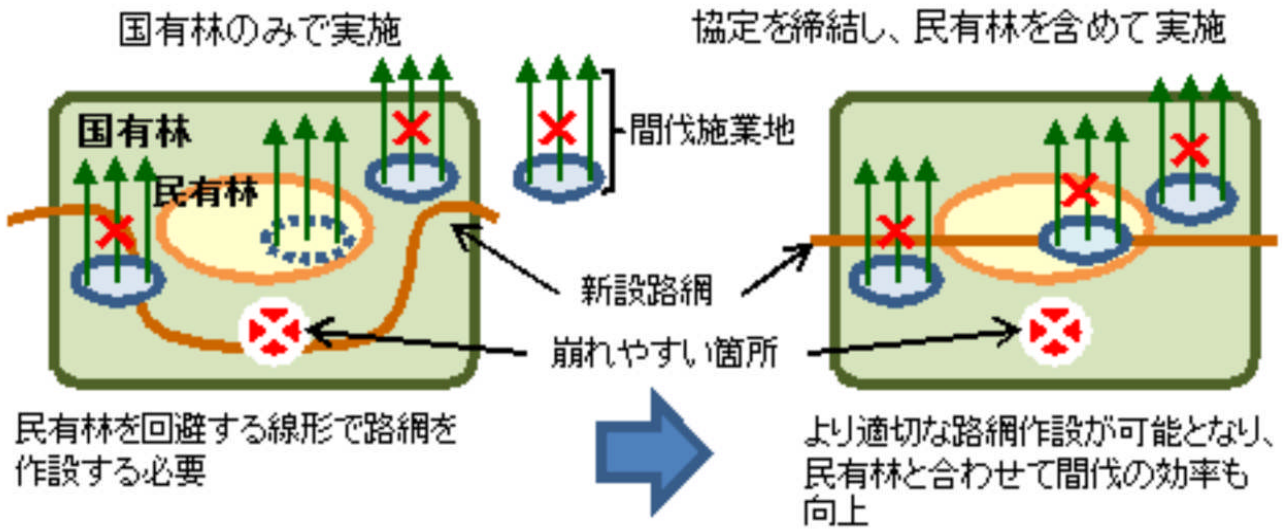


ヤクシカワーキンググループ



巾着式箱わなの説明会

イメージ(より適切な路網作設+間伐)



公益的機能維持増進協定制度のイメージ



出水地域森林整備推進協定締結



准フォレスター研修



アートギャラリー除幕式

(2) 森林共働施業団地及び公益的機能維持増進協定の取組
これまでに14署20地域において、森林整備推進協定を締結し、18の森林共同施業団地を設定しています。今後はこの取組を引き続き進めるとともに、既設の

森林共働施業団地において、効果的かつ効率的な路網の設定などを推進します。
更に、国有林に隣接・介在する私有林を対象として、私有林の施業などが十分に行われていないものについて、国有林が主

(4) 森林・林業と国民とのふれあい推進
国有林をフィールドとして森林・林業とのふれあいの場などを提供するとともに、森林の機

番号	協定名	面積 (ha)
①	神崎市菅振地域	2,408
②	村馬流域	27,377
③	五木地域	6,304
④	宇那川地域	1,056
⑤	日田地域	2,875
⑥	中津・宇佐地域	892
⑦	宇佐地域	468
⑧	佐伯市傾山地域	762
⑨	延岡市祝子川地域	3,776
⑩	椎葉村松尾・下福良地域	2,195
⑪	檜・白水地域	916
⑫	北諸県・田野地域	5,157
⑬	綾地域	2,258
⑭	日南市富土地域	286
⑮	出水地域	9,380
⑯	鹿児島地域	882
⑰	南薩地域	2,108
⑱	始良西部地域	5,341
⑲	内之浦地域	6,745
⑳	屋久島地域	7,241

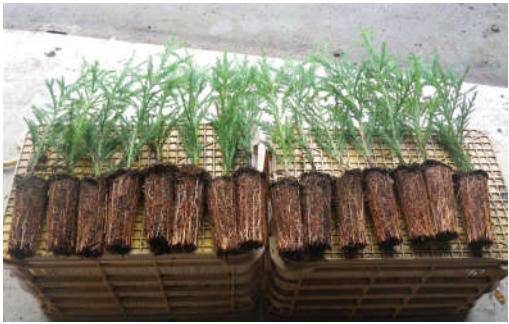
森林整備協定締結地域

※⑤と⑯については協定のみ締結

(3) 准フォレスター等人材育成の推進
私有林・国有林を含め、地域林業を支える人材を積極的に育成していく観点から、引き続き「准フォレスター研修」「林業専任道技術者研修」を実施することとし、研修フィールドの提供、職員の研修講師としての派遣、研修運営業務の監督などを行います。



森林作業道検討会



コンテナ苗

能や役割、木材を使用することによる地球温暖化防止への貢献などをご理解いただくため、「森林のアートギャラリー」「森を学ぶ面白塾」などの普及活動を行います。

また、学校、生徒に対して、森林教室などの実施、学校林や体験活動の場としての国有林野の提供、研修、教育資材の提供などを実施していきます。

加えて、九州の間伐材を原料として「木になる紙」の普及を通じて、消費者と森林を直接結びつけ、国民全体で森林づくりを応援する活動に取り組みます。

林業の低コスト化と木材の安定供給

(1)路網整備の推進と低コスト作業システムに向けた取組

効果的・効率的な森林整備を進めため「林業専用道」「森林作業道」について、開設技術の向上に取り組みとともに、民有林への普及に努め、これら路網を活用し、林業生産コストの低減を図ります。

また、今後の主伐期への対応として、主伐箇所において伐採から植付の作業を一貫して行うシステムの拡大に新たに取り組みます。

(2)低コスト造林の確立に向けた取組

コンテナ苗を使用した植栽については、誘導伐（複層林誘導のための伐採箇所など）での植栽を予定しており、伐採から植付の一貫作業により、地拵えを簡略化し、低コストに抑えた植

栽を引き続き実施します。これらの取組によって得られたデータは、広く公表していくこととし、民有林を含めた林業経営コストの低減に寄与します。

(3)国産材の安定供給・利用拡大の推進

平成25年度のシステム販売においては、近年の国産材需要、流通機構の変化などを踏まえ、間伐材の木質バイオマス利用など新たな需要開発・拡大などに取り組む者などに対しシステム販売を政策的な支援ツールとして活用を図ります。

また、バイオマス発電用燃料の需要増を念頭に、保育間伐箇所（未利用材中心の林分）の立木販売や林地残材などの積極的な販売に新たに取り組みます。

さらに木材価格急変時の供給調整機能を発揮するため「国有林材供給調整検討委員会」を新たに設置し、木材の需給・市況動向を踏まえた木材供給に努めます。

(担当)企画調整課

シヤクナゲパトロール開始

【屋久島森林生態系保全センター】屋久島世界自然遺産登録20周年を迎える本年、屋久島森林生態系保全センターでは、ヤクシマシヤクナゲの開花時期を迎え、

山地災害防止キャンペーン

林野庁は、平成25年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

九州森林管理局では、この期間中、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などの理解・協力を得ながら、危険箇所の周知や山地防災パトロールなどを実施します。(担当=治山課)

子や孫へ安心つなげる 治山事業

平成25年度 山地災害防止キャンペーン

期間 5月20日(水) - 6月30日(日)

主催 林野庁・国土交通省

協賛 九州森林管理局 市町村

協賛 (社)日本地産材協会

むこととしています。

登山者が多くなる時期に屋久島森林管理署と協同で「シヤクナゲパトロール」を行っています。

本年は5月27日から6月7日を計画。高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。今年は温暖な気候の影響で例年よりシヤクナゲの開花が早く、また、これから開花を迎えるつぼみもまだ見られることから、多くの方々が安全に注意し屋久島の悠大な自然に触れていただければと思っております。登山者のマナーも向上し、今後も引き続き呼びかけを行い登山マナーの向上に取り組み



屋久島シヤクナゲパトロール 屋久島森林生態系保全センター

自署の名山



宮崎南部森林管理署

酒谷森林事務所

森林官 山本 歩

宮崎南部地域にある当事務所管内からは、宮崎百山に選ばれている『小松山』を紹介しています。小松山はかつて英山とも言われ旧北郷町（現在は日南市）と日南市の境界にある鰐塚山地（別名＝南那珂山地）の中の一

鰐塚山地の名山 「小松山」九八八・八三

つで、標高は鰐塚山1111・8・1に次ぐ第2位の988・8ですが、山裾は比較的緩やかで山容を呈しています。登山ルートは、ベテラン向けの坂元コース（山頂まで約150分）、短時間で登れる石原コース（山頂まで約70分）や緩やか

な稜線を歩く板床コース（山頂まで約130分）など全部で6コースの登山が楽しめます。また、石原コース途中の展望スポットからは、樹齢96年のケヤキ林が一望でき、そのハート形にも見える形状と中央部に残っている一本のスギから「まるでハートに矢が刺さっているみたい」と登山者の心をとらえています。



日南ダムから小松山を望む＝宮崎南部



山頂から日南市の市街地や太平洋を望む＝宮崎南部

照葉樹林の中、ロープを伝い急峻な登山道を登って行くと頂上は開けた草原となっており、そこからは、西方には遠くに霧島連山が見え、東方には日南市街地や太平洋、南方には酒谷川挟んで対峙する男鈴山783mなどのすばらしい眺望となっています。また、南西斜



日本棚田百選の「坂本棚田」

面標高200mの麓には、日本棚田百選にも選ばれている「坂元棚田」があり、小松山の清らかな水が流れ込んでいます。

この棚田は、昭和3年から昭和9年にかけて開墾され、長方形の田んぼが階段状に整然と並び近代的なイメージで、石積みは自然石を大小に割って垂直に積み上げた荒削りなものです。素朴で温かみがあります。

年間を通して多くの観光客が訪れていますが、一番の見頃は、棚田が黄金色に染まる10月上旬です。

みなさん是非、多様なコースの中から自分にあったコースを選んで、「ハート形のケヤキ林」、「坂元棚田」や山頂から見えるすばらしい眺めを「いっぺん見にきかないよ！」

「採材検討会」を開催

【熊本南部森林管理署】当署管内大畑国有林で、林業事業者やシステム販売協定者、当署職員約70人が参加し、「★採材検討会」を開きました。はじめに、

安定供給システム販売の取り組み状況や採材・造材の考え方について説明があり、三班に分かれ用意されたスギやヒノキの試供木をどのように採材するか検討を行い、意見交換では、採材方法に対する活発な意見が出されました。また、腐れなどの欠点などの部分まで入っているか実際に造材し確認するなど、有利な採材方法について確認する良い機会となりました。

★刈伐倒した木を、用途や市場の動向に合わせて玉切ること



採材方法について検討する参加者＝熊本南部

木材利用の促進

本市は、総面積65331畝のうち約55%に当たる36101畝が森林であり、そのうち民有林が17316畝となっています。民有林の人口林面積は13465畝で、その約88%が標準伐期に達していることから、その利用が重要な課題となっています。



宮崎県 都城市 市長
池田 宜永 さん

本年度にSGEC森林認証取得をめざしています。こうした取組が都城市の森林・林業・木材産業などの大きな飛躍につながるものと期待しています。

また、木材は、「心が落ち着く」などの癒し効果があると言われており、健康で快適な住空間を創出することができます。高齢化社会やストレス社会を迎えるこれからの時代は、人にやさしい木材を使った住環境づくりが益々求められてくるものと考えます。

【長崎森林管理署】長浦森林事務所管内万助山国有林において、長崎市内の建設業株式会社谷川建設の新社員12人が植樹を体験しました。これは「森林造りによる公益性を体験で学習し社会に貢献する」目的で行うもので方エデ、ヤマザクラやヒノキなど250本を当署職員指導の下、一本一本丁寧に植え付けました。新社員らは、苗木が成長すると、自身が成長していくのを重ね合わせ、成長していく苗木を見に来ることを楽しみに下山しました。



そのため、本市では、平成24年10月に東京都港区と「間伐材を始めた国産材の活用促進

に関する協定」を締結し、「みなどモデル二酸化炭素固定認証制度」のもとで都城産材の供給促進に努めています。さらに、木材の差別化や付加価値を付けて利用促進を図るため、平成25

「鹿児島森林管理署」5月22日地元自治公民館長や鹿児島市など関係者約30人が参加し平成24年度実施状況と25年度の実施計画について地元説明会を桜島支所及び施工予定地において開き、治山事業の目的、重要性、有効性を確認していただきました。

本市においても、今後、公共施設や学校などに木材を活用するなどにより、人にやさしい「まちづくり」を進めていきたいと考えています。

森林パトロール実施

【屋久島森林生態系保全センター】当センターでは、本年度も森林保護員

(グリーンサポーター)による森林パトロールを行っています。

五月から二人一組で、登山道周辺などの森林における植物荒廃の状況把握や植物の盗採・盗掘、樹木損傷



森林保護員のみなさん＝屋久島保全センター

などの防止をはじめ登山マナー向上の呼びかけを行っています。登山者の皆さんへご理解とご協力をお願いします。

桜島地区治山事業地元説明会の開催

参加者から「ここ数年土石流が発生していないのは治山対策のおかげで、危険な箇所は大変ですがこれからもよろしくお願いします」と感想があり、これまでの苦労が報われた説明



治山事業実施箇所を確認する参加者＝鹿児島



植樹について説明を受ける新社員のみなさん＝長崎



橋本 眞一さん

嫌で仕方なかった仕事だったが、毎日通ううちに山林に入り込む事自体が楽しくて仕方がないようになってきた。

まず、樹木は人間のように文句を言わない。素直である。手をかけ、『このように育ててほしい』と思って手入れをすれば、思った通りに育ってくれる。もちろんそうでない樹木も存在する。もともと生きていく場所を選べないし、環境が性質に適合していない場合は素直に成長できずは育たない。ほとんどの樹木は与えられた環境と自分の特性を最大限に生かして成長していつてくれる。その成長の過程を見ることがたまらなく好きになっていった。当然、仕事の結果として発生する収入も励みになり、好きになった一因かもしれない。

山の中に思ふ人々

やがて木材の自由化が始まり、住宅の着工戸数は減少し、アルミサッシや新建材等が使用され、木材の材料としての価値が希薄になっていったように思う。今はどうだ。紙や加工された建材の原料としての役目しか担っていないように思われる。当然山林での収入は激減し、生活が困難な状況になったので仕方なく都市部で働くことになった。

少数派ではない。小学校・中学校で教科書に樹木の記述がなく、周囲にも使用されている場所がない。使っても他の材料で目隠しされてまるで見えやしない。何の知識も感情も出てこないのは仕方ないことかもしれない。ただ自分の山林に登って少し作業をして、転がって青空の中の雲を眺め、風に吹かれていると妙に気持ちがいい。そう言えば、この気持ちよさを求めて山歩きに来る人がかなり多いようだ。人の遺伝子の中には自然の中で感じる安らぎや気持ち良さがまだ残っているのかもしれない。

そうだ、自分の山林を来てみて気持ちの良い環境に作り替えよう。都市に住む人が歩きやすいうように、勾配の少ない作業道来局の際には、正面玄関の天井や木壁等を通して木の温もりを感じていただきますとともに各県木の成長を見守り頂きますようお願い致します。

山林との付き合いは中学生の頃から始まったのではないかと思っている。周囲の友達が夏休みで遊んでいる中、下草刈りやスギタマバエの殺虫剤の散布を手伝っていたこの記憶がある。それは決して楽しい思い出ではない。どちらかといえば「きつい」「つらい」を通り越して「悲しい」の感覚に近かった。「悲しい」の感覚に近かった。親父の入院をきっかけに大学進学をあきらめ、山林の仕事と向き合うようになった。当初は



森林管理局では耐震改修工事の完成に伴い庁舎周囲に新たな緑地帯を設けました。

工事で設置されたP.C.Fレーム(コンクリート補強)周囲緑地帯に、サザンカ約三十本、サツキ約二百五十本を植樹し、土

が浅く植樹出来ない箇所には、寒暑や乾燥にも強く常緑の芝桜等の植樹を予定しています。

玄関ポーチ前の緑地帯には、九州・沖縄各県の県木を植樹することとして、クルメツツジ

緑を感じて

いであろうとの判断から沖縄県を代表するアリハボクやフクギを庭園風に整備しています。

(経理課長 迫口親)



山中で今自分が感じている心地良さを味わってもらうために山林の環境を整えることと来てもらうための手段を取りたいなと昼食を食べた後にポーツしながら考えていた。

(熊本県八代市在住)

◆退職◆

◆定員内職員◆
5月31日付森林管理局長発令
井研市(鹿児島署)

三股西小学生在森林教室

【都城支署】三股町立三股西小学校から「総合的な学習の時間」の一環として「森林教室」の要請があり、遅霧国有林において、4年生131人に「樹木調べ・丸太切り・測樹体験」の森林教室を行いました。「樹木調べ」では、木の葉の検察表で形や特徴を見比べ、正解すると歓声があがり、「丸太切り」体験では、懸命に鋸を曳き、切り終わった丸太の年輪を数えたり、匂いを嗅いで喜び、大事に持ち帰っていました。「測樹体験」では、二等辺三角定規を使った立木の高さを測る体験に、感動の声が上がりました。この森林教室は、児童の、森林や自然に関する体験を通じた学習の課題

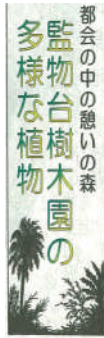


樹木調べに参加する児童ら＝都城

作りを目的としており、当支署としてもこの活動に積極的に協力を行いながら森林の役割・自然との関わりについて知識や理解を深めてもらえるよう取り組みでいくこととしています。この模様は、テレビ・新聞などで報じられ、森林・林業の重要性をPRすることができました。

地域イベントで国産林産品PR

【宮崎森林管理署】農林水産物の地場産品を広く紹介し、地域貢献を図ることを目的に「食フェスタ in みやざき2013」



暖帯の森林に普通にある樹木です。アラカシは昔から薪炭材として利用されましたが、現在では、たき火ができないことから薪を燃やした炊飯や風呂焚きが懐かしく思い出されます。現在の小学生の父母らは、薪を使

たことのない世代で、自然観察会での「薪」は死語となっています。葉は他のカシに比較して葉の中部以上に鋭い鋸歯があることが特徴です。裏は白っぽくなっており、この色を「緑白色」と

が開かれ、当署から木工作品作成コーナーを設け、「木製キーホルダー」もつくんとや「木製ネームプレート」作りの体験教室を開き、「作ってみたい」との参加者が多く材料不足になるほど好評でした。また、「緑の相談窓口」も設け、一般客からいろいろな緑の相談に対応しました。当日は晴天に恵まれ多くの参加者で賑やかな催しとなり、各職員が国有林のPRに取り組み有意義な「食フェスタ」となりました。

68 アラカシ(ブナ科)

表現し、ウラジロカシの裏面の色は「雪白色」、シラカシは「淡緑色」と表現します。

アラカシの名前は粗樫で枝葉が粗大で硬いからと思われ、カシは堅木のことのでカシと読ませています。

冬芽と言えはほとんどが葉のない時の落葉樹を観察しますが、アラカシを始めサカキ、アカガシ、ツバキ、サザンカなど常緑樹にもそれぞれ独特の冬芽を観察でき、判別の重要な手がかりとなっています。樹木園のトイ



木工作品作成に挑戦する参加者 川宮崎



レの入り口右側にあります。



今年は5月27日ごろ梅雨入りしたと発表されたが、梅雨らしい雨は降っていない。今後シトシトと降るのだろうか▲昨年の九州北部豪雨が思い出される。熊本市内でも、一部地域では白川が氾濫し救助ヘリが出動、繁華街近くでも堤防の高さぎりぎりまで迫った濁流の様子がライブ映像で放映され、目を疑うような光景であった。今も白川では堤防の改修工事が急ピッチで行われている▲ハザードマップや防災マップなどで、避難場所や避難経路の確認・非常持ち出し品の点検が大切である▲災害が起こるとライフラインが停止する。3・11東日本大震災を経験した友人からの話では、当日、停電になり電話はほとんど不通、ラジオもなく情報が無い中、自分たちがどういう状況に置かれているのか分からず不安であったと話してくれた▲我が家でも災害に備えラジオ、飲料水ポリタンク、ライトなどを買い込んだ。「備えあれば憂いなし」と言うが決して安心してはならない。梅雨前線の活動は今後活発化するだろう。穏やかな梅雨明けになるよう祈りたい。(か)